

SGI™ 1400 Server Family

クイックスタートガイド

ドキュメント番号 007-3979-001JPN

制作スタッフ

著作 Mark Schwenden

イラスト Dan Young, Cheri Brown

制作 Heather Hermstad, David Clarke

技術協力 James Oliver, Courtney Carr

イメージ提供 サンピエトロ大聖堂 (ENEL SpA, InfoByte SpA 提供)

円盤を投げる男 (Xavier Berenguer, Animatica 提供)

© 1999, Silicon Graphics, Inc.— All Rights Reserved

本書の内容の一部あるいは全部について (ソフトウェアも含む)、Silicon Graphics, Inc. から事前に文書による明確な許諾を得ず、いかなる形態においても複写、複製することは禁じられています。

本装置は、テストにより、FCC 規格パート 15 に従いクラス A デジタルデバイス規制に準拠した製品として認定されています。本装置は、高周波エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があります。本装置が取扱説明書どおりに設置および使用されない場合は、無線通信に有害な干渉をあたえることがあります。

LIMITED AND RESTRICTED RIGHTS LEGEND

Use, duplication, or disclosure by the Government is subject to restrictions as set forth in the Rights in Data clause at FAR 52.227-14 and/or in similar or successor clauses in the FAR, or in the DOD, DOE, or NASA FAR

Supplements. Unpublished rights reserved under the Copyright Laws of the United States. Contractor/manufacturer is Silicon Graphics, Inc., 1600 Amphitheatre Pkwy., Mountain View, CA 94043-1351.

Silicon Graphics は Silicon Graphics, Inc. の登録商標であり、Silicon Graphics のロゴは Silicon Graphics, Inc. の商標です。Adobe, Acrobat, Acrobat Reader および PostScript は Adobe Systems Incorporated の商標です。Microsoft および Windows は Microsoft Corporation の商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. を通じて米国およびその他の国々に独占的にライセンス供与されている登録商標です。

SGI™ 1400 Server Family クイックスタートガイド
ドキュメント番号 007-3979-001JPN

目次

SGI 1400 サーバファミリーについて	1
本体の構成.....	2
場所の選定および環境に関する要件.....	3
電源コード.....	5
電源コードの要件.....	6
モニタ、キーボードおよびマウスのコネクタ.....	6
ビデオモニタとサーバへの電源投入.....	8
POST (Power-On Self Test) の起動.....	10
CD からの起動.....	11
起動デバイスの優先順位の変更.....	12
SGI Technical Publications Library からのマニュアルの入手.....	13
CD からのマニュアルの出力.....	13
Acrobat の .PDF ファイルを使用する場合.....	14
PostScript の .PS ファイルを使用する場合.....	15
PostScript プリンタのインストール (NT の場合).....	15
PostScript プリンタのインストール (Linux の場合).....	15
フロッピーディスクへの構成ソフトウェアのコピー.....	16
製品に関する警告.....	17

SGI 1400 サーバファミリーについて

このマニュアルでは、新規購入されたサーバの開梱、接続、および電源投入の手順について説明します。このマニュアルの全手順の終了後は、そのまま構成作業を続行できます。または、サーバの機能説明をお読みください。サーバシステムの詳細については、『SGI 1400 Server Family ユーザーズガイド』を参照してください。

SGI 1400 サーバファミリーの製品として、SGI 1400M (Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用) や SGI 1400L (Linux オペレーティングシステムを使用) などがあります。サーバの機能インターフェースはオペレーティングシステム (OS) に応じて異なりますが、基本的なハードウェア機能、診断機能、構成は SGI 1400 サーバファミリーのどの製品でも同じです。このマニュアルでは、SGI 1400 サーバファミリーのすべてのシステムを総称的に「サーバ」または「SGI 1400 サーバ」と呼んでいます。



警告: サーバ開梱時の人身事故を防ぐために、配送用パレットからサーバを持ち上げる作業は、2名で行うか、または補助器具を使用してください。サーバの重量は、最小構成時で 38 kg、最大構成時で 45 kg です。サーバを別の場所に移動するときは、手押し車などの補助器具を使用してください。サーバを持ち上げるとき、または移動するとき、電源のハンドルを持たないでください。このサーバのカバーを外す前に、製品に関する警告17 ページの「製品に関する警告」もお読みください。

本体の構成

SGI 1400 サーバはラックマウント型 (ラック型) とアップライト型 (ペDESTAL型) の 2 種類があります。図 1 は、その外観の一例です。納品後にサーバの構成 (型) を変更する場合は、最寄りの販売代理店からアダプタキットをご購入ください。

ラックマウント型サーバを 19 インチの装置ラックに搭載する手順については、『SGI 1400 Server Family ユーザーズガイド』を参照してください。

表 1 SGI 1400 サーバの物理的仕様

仕様	ペDESTAL型	ラック型
高さ	48.26 cm (19 インチ)	48.26 cm (7u)
幅	31.12 cm (12.25 インチ)	19 インチのラック
奥行き	63.5 cm (25 インチ)	63.5 cm (25 インチ)
重量	最小構成時 38.25 kg 最大構成時 45 kg	最小構成時 38.25 kg 最大構成時 45 kg
前面側に必要な間隙	25.4 cm (10 インチ) (吸気温度 最高 35°C)	25.4 cm (10 インチ) (吸気温度 最高 35°C)
背面側に必要な間隙	20.3 cm (8 インチ) (換気を妨げる障害物のないこと)	20.3 cm (8 インチ) (換気を妨げる障害物のないこと)
側面側に必要な間隙	必要なし (メンテナンス用に間隙が必要)	なし (側面へのアクセスが必要なときは、ラックからの取り外しが必要)

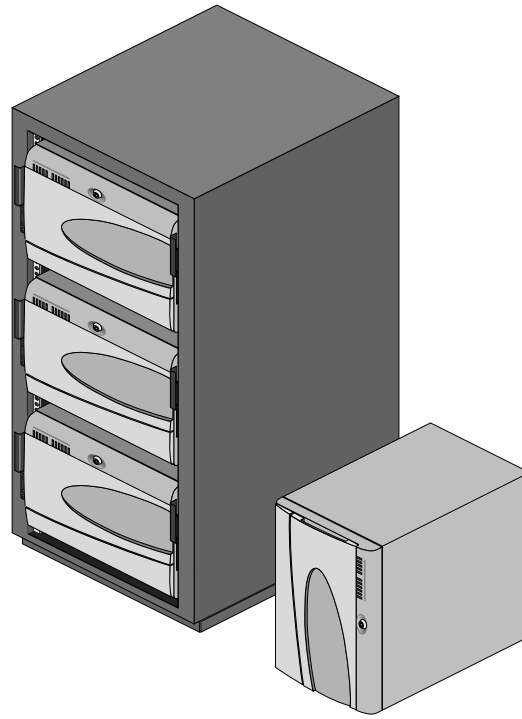


図 1 3 台のサーバを搭載したラックマウント型とアップライト型サーバの例

場所の選定および環境に関する要件

サーバの設置箇所として、以下の条件を満たす場所を選択してください。

注意： 静電気放電 (ESD) はディスクドライブ、アドインボードなどの部品の損傷原因になります。このサーバは通常レベルの環境 ESD には耐えることができます。ただし、このマニュアルに記載されているすべての作業を ESD 防止付きの作業台で行うことをお勧めします。このような作業台がない場合は、コンポーネントを扱うときに導電リストストラップを着用してください。ストラップの末端は、サーバのフレームグラウンド、つまり未塗装の金属面に接地します。電源は必ず適切に接地されたコンセントから取ってください。



警告: AC 電源の切断は、サーバのフロントパネルにある押しボタン式電源スイッチでは行えません。サーバの AC 電源を完全に切断するには、AC 電源コードを各電源またはコンセントから抜く必要があります。

このサーバは、大半のオフィスまたは研究所における通常的环境レベルで正常に動作します。以下の条件を満たす場所を選定してください。

- 適切に接地されたアース端子付きコンセントが近くにある。
 - 米国とカナダの場合: AC 100 ~ 120 V または AC 200 ~ 240 V のコンセント。
 - その他の地域: 現地の電力会社の指示および電気規格に従って、適切に接地されたアース端子付きコンセント。
- 清潔で比較的埃が少ない。
- 適切に換気され、熱源から離れており、サーバの換気孔を塞ぐ障害物がない。
- 振動源または衝撃源が近くにない。
- 電気機器 (エレベータ、コピー機、エアコン、大型扇風機、大型電気モータ、ラジオ、テレビ、高周波セキュリティデバイスなど) から発生する強い電磁場および雑音から遮断されている。
- サーバの電源コードを電源またはコンセントから抜くための間隙がある (サーバから AC 電源を切断するには、電源コードのプラグを抜く必要があります)。
- 冷却および換気用の間隙がある。必要な間隙は本体の構成により異なります。2 ページの表 1 を参照してください。

サーバの設置場所の環境要件を示します (表 1)。

表 1 設置場所の環境仕様

温度	
非動作時	-40°C ~ 70°C
動作時	10°C ~ 35°C。海拔 305 m 毎に -0.5°C 海拔上限 3,050 m。温度変化率最大 10°C/時間
湿度	
非動作時	30°C における相対湿度 95% (結露なきこと)
動作時の湿球温度	33°C 以下 (フロッピーディスクドライブまたはハードディスクドライブ使用時)
衝撃	
動作時	2.0 g、11 ミリ秒、1/2 正弦波
梱包時	76.2 cm (30 インチ) からの自由落下後に動作可能 (外装が傷つく場合あり)
音響ノイズ	最大 55 dBA (28°C +/- 2°C で電源 3 基の動作時)
静電放電 (ESD)	Intel 社規定の環境試験仕様に基づき 20 kV まで試験。コンポーネントの破損なし。
AC 入力電源	
AC 100 ~ 120 V	AC 100 ~ 120 V、7.6 A、50/60 Hz
AC 200 ~ 240 V	AC 200 ~ 240 V、3.8 A、50/60 Hz

電源コード

サーバの電源コードについて説明します。

注意： 同梱されている AC 電源コードがサーバの設置および使用場所の条件に厳密に適合しない場合は、そのコードを改造または使用しないでください。適切なコードに交換する必要があります。「電源コードの要件」を参照してください。

内蔵コンポーネント (ボード、DIMM、リムーバブルデバイスなど) を追加するときは、あらかじめサーバの電源コードをすべて抜いてください。詳細については、『SGI 1400 Server Family Maintenance and Upgrades Guide』を参照してください。

電源コードの要件

サーバの電源コードは以下の要件を満たす必要があります。

- **定格:** 現地の AC 供給電圧に合ったコードで、定格電流がサーバの定格電流の 125% 以上のもの。
- **コネクタ (コンセント側):** 現地仕様のアース端子付きオス型プラグ。現地の管轄機関による認証を示す認証マークが付いていること。
- **コネクタ (電源側):** サーバ電源の AC プラグに差し込むコネクタは IEC 320、シート C13 準拠のメス型コネクタ。
- **コードの長さとう性:** 長さ 4.5 m 未満の柔軟な (同調 <HAR>) コードまたは VDE 認定コードで、サーバの安全規格に準拠するもの。

メモ: 落雷が発生する地域では、サージの使用を特にお勧めします。

電磁妨害に関する規制「EMC (Electromagnetic Compatibility) 規則」への準拠については、『SGI 1400 Server Family ユーザーズガイド』の第 1 章「5.25 インチリムーバブルデバイス用のベイ」を参照してください。

モニタ、キーボードおよびマウスのコネクタ

サーバのモニタ、キーボード、およびマウスの接続方法について説明します。サーバに PCI イーサネットカードが標準で搭載されている場合は、その動作と機能をカードの説明書で確認してください。

注意: 外付デバイスを接続する場合は、あらかじめサーバのケーブルをすべて取り外してください。ケーブルが接続されていると、装置が損傷することがあります。

サーバ背面のコネクタ位置 (モニタ、キーボード、マウスなど) を示します (図 2)。

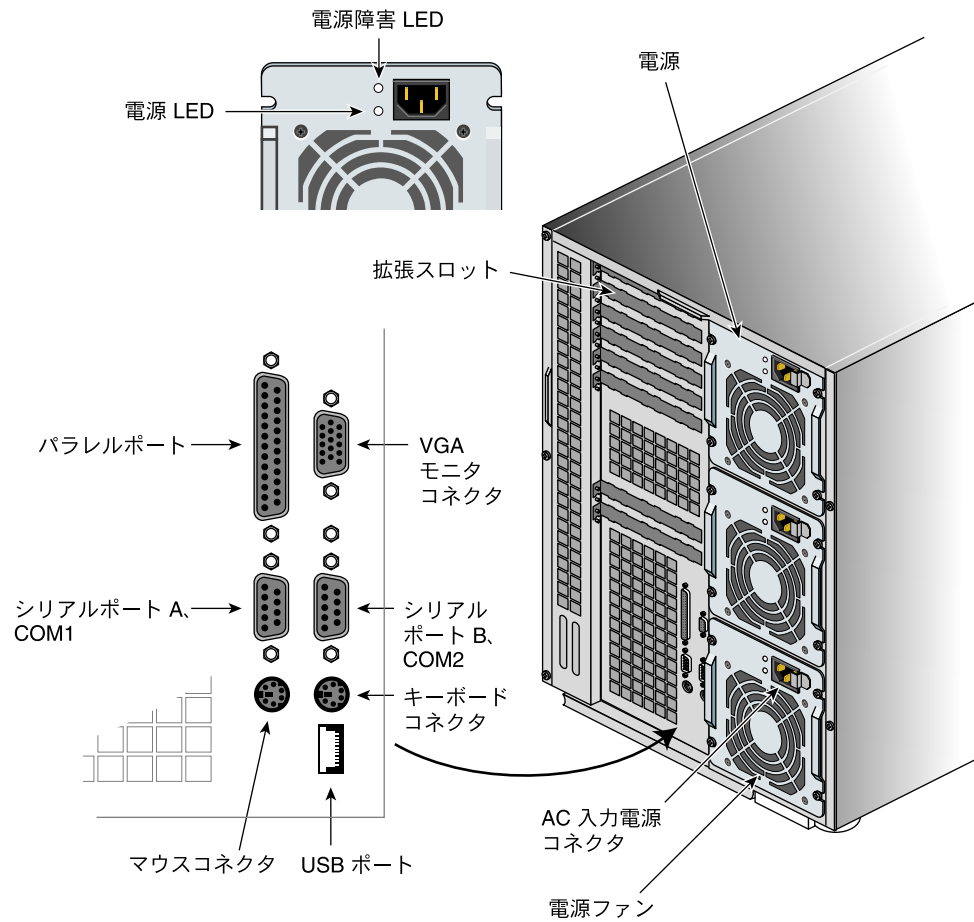


図 2 SGI 1400 サーバ背面のコネクタとコントロール

ビデオモニタとサーバへの電源投入

次の手順で、サーバとビデオモニタ (オプション) に電源を投入します。

1. すべての外付デバイス (モニタ、キーボード、マウスなど) が接続されていることを確認します。
2. フロッピーディスクドライブからドライブ保護カードを取り除きます (ドライブ保護カードがある場合)。
3. ビデオモニタに電源を投入します (ビデオモニタがある場合)。
4. サーバの AC 電源コードのメス型コネクタをフレーム背面の電源入力プラグに差し込みます。
5. サーバの AC 電源コードのオス型コネクタをコンセント (接地されたアース端子付き AC 電源コンセント) に差し込みます。5 ページの「電源コード」を参照してください。
6. サーバのケーブルプラグを AC コンセントに差し込んでもサーバが起動しない場合は、フロントパネルの押しボタン式電源スイッチを押します。
7. フロントパネルの電源 LED が点灯することを確認します。数秒後、POST (Power-on Self Test) が起動します。

サーバ前面の右上には、状態表示用の 11 個の LED があります。これらの LED は以下の状態を示します (上から)。

- システムの通電状態
- ディスクベイの通電状態
- ハードディスクのアクティビティ
- システムのファン障害
- 電源障害
- 下の 6 個の LED は、ハードディスクドライブ 0 ~ 5 のアクティビティを示します。

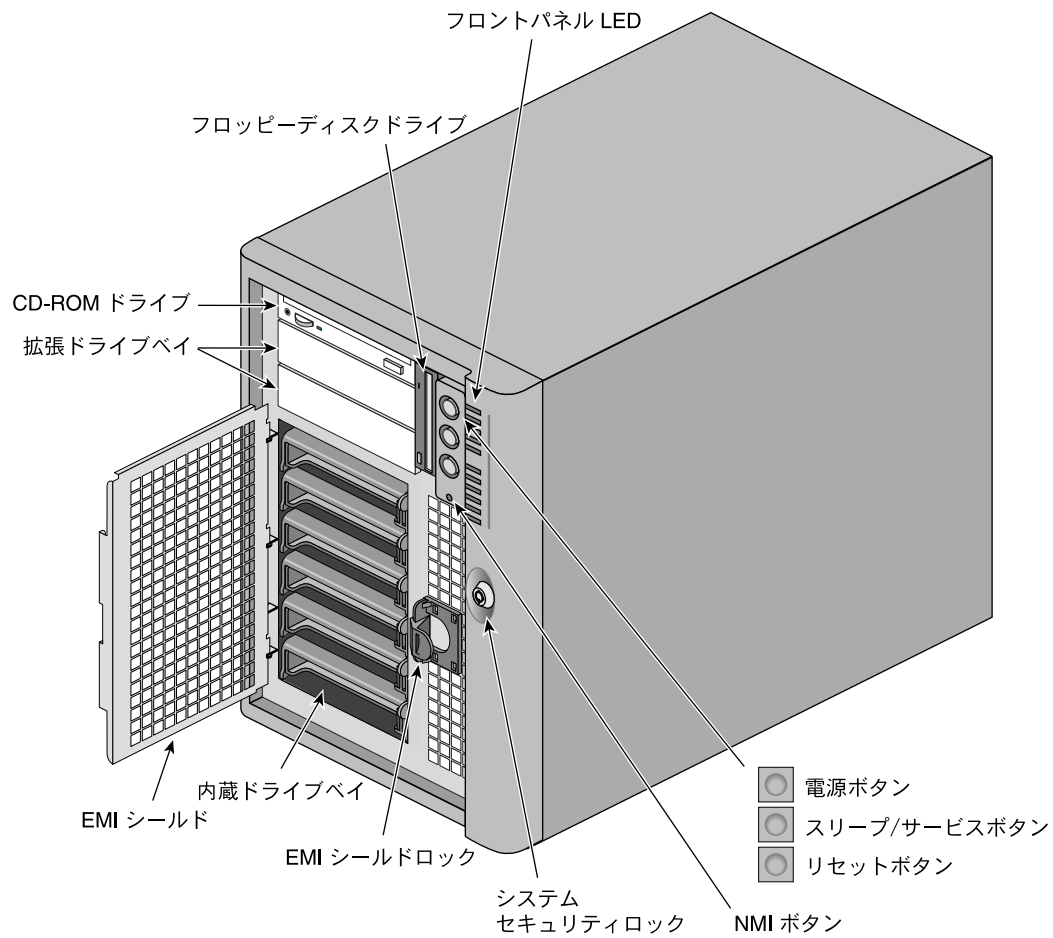


図 3 SGI 1400 サーバ前面のコントロールとインジケータ

POST (Power-On Self Test) の起動

システムに電源を投入するたびに、POST (Power-On Self Test) が起動します。POST によりベースボードとプロセッサ、メモリ、キーボード、およびインストールされている周辺機器がテストされます。POST は使用できるメモリ量を表示し、テストします。メモリテストの所要時間は、搭載されているメモリ量に依存します。POST は、フラッシュメモリに格納されており、次のように動作します。

1. ビデオモニタとシステムの電源を投入します。数秒後に POST が起動します。
2. メモリのテストが終了すると、以下のプロンプトとメッセージが画面に表示されます。

```
Keyboard Detected
```

```
Mouse Initialized
```

```
Press <F2> to enter Setup
```

3. OS を起動できるデバイスがない場合は、警告音が 1 回鳴り、次のメッセージが表示されます。

```
Operating System not found
```

F2 を押さないと、起動プロセスが続行され、一連のメッセージが表示されます。

```
Press Ctrl C to enter SCSI Utility
```

4. SCSI デバイスが搭載されている場合は、**Ctrl + C** を押します。SCSI ユーティリティに切り替わったら、画面の指示に従ってオンボード SCSI ホストアダプタを構成し、SCSI ユーティリティを実行します。『SGI 1400 Server Family ユーザーズガイド』の第 3 章「NT 用 Symbios SCSI Utility の使用」も参照してください。SCSI ユーティリティに切り替えないと、起動プロセスが続行されます。
5. POST 中に **Esc** を押すと、POST が終了した時に [Boot] メニューが表示されます。このメニューから起動デバイスを選択したり、BIOS Setup を起動できます。

POST が終了すると、警告音が 1 回鳴ります。

この後の画面に表示される内容は、OS がインストールされているかどうか、またインストールされている OS の種類によって異なります。

CD からの起動

場合によっては、オペレーティングシステムを CD からロードまたは再ロードする必要があります。

メモ： CD を扱うときは、CD の中心穴と外縁に指を掛けて持ちます。ラベルがない面（データ記録面）には触れないでください（図 4）。

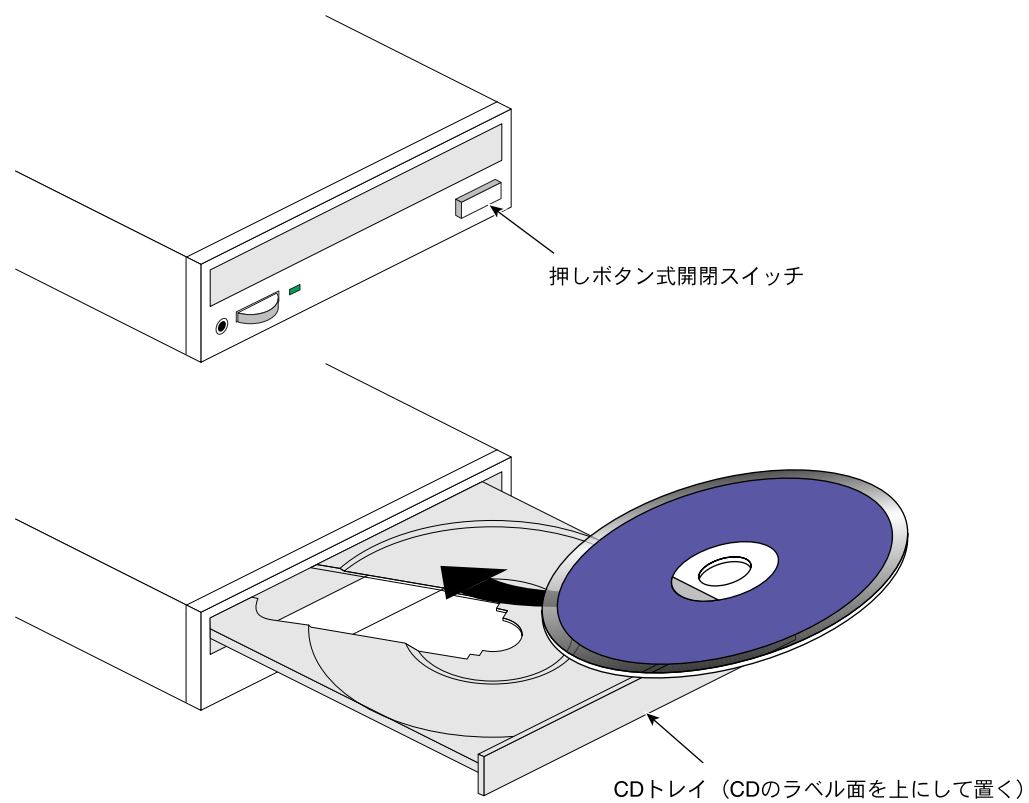


図 4 CD-ROM ドライブの一般的なロード方法

Silicon Graphics 社から納品される SGI 1400 サーバは、工場出荷時に OS のすべての機能がハードディスクにインストールされています。したがって、ディスクまたはファイルシステムの重大な障害が発生しない限り、OS の再インストールは必要ありません。

メモ： Operating System Not Found というメッセージが表示された場合は、12 ページの「起動デバイスの優先順位の変更」の手順に従ってください。誰かが起動デバイスの優先順位を変更したかもしれません。

1. CD-ROM ドライブのフロントパネルの開閉ボタンを押して、CD トレイを開きます。トレイがドライブから出てきます。
2. CD ケースの蓋を開きます。ケース中央の突起を押して CD を外します。
3. CD の中心穴と外縁に指を掛けてそっと持ち上げます。CD をケースから取り出し、ラベル面を上にして CD トレイに置きます。
4. 開閉ボタンを押すか、CD トレイをそっと押します。CD トレイが自動的にドライブに引っ込みます。
5. フロントパネルのリセットスイッチを押して、サーバを再起動します。
6. POST が完了すると、サーバが CD から起動し、マウスドライバがインストールされ、CD-ROM のメニューバーが表示されます。方向キーでメニューバー上を移動すると、タスクがポップアップメニューに表示されます。

起動デバイスの優先順位の変更

起動デバイスの優先順位は、次のどちらかの方法で変更できます。簡単な方法 (最初の手順) で設定した優先順位は、次回起動時にのみ有効です。複雑な方法 (2 番目の手順) で設定した優先順位は、起動デバイスの優先順位を次回変更するまで有効です。

1. POST 中に **Esc** を押します。POST が終了すると、[Boot] ポップアップメニューが表示されます。
2. 方向キーで [Removable Media] を強調表示し、**Enter** を押します。
または
サーバを起動します。CD をドライブに入れたままでもかまいません。
3. BIOS の名前とバージョンが表示されます。そのすぐ下に、サーバ内で検出されたメモリサイズが表示されます。
4. 直ちに **F2** キーを押します (この動作に対するプロンプトが表示されない場合もあります)。テストがいくつか完了すると、BIOS Setup のメイン画面が表示されます。

-
5. Setup の画面で [Boot Menu] を選択し、**Enter** を押します。
 6. [Boot Device Priority] を選択し、**Enter** を押します。
 7. [Boot Device Priority] 画面で ↑ または ↓ キーを使用して目的の起動デバイスを選択し、+ キーを押してリストの先頭に移動します。
 8. 残りの 2 つの起動オプションデバイスが優先順位第 2 位と第 3 位の起動デバイスになります。
 9. **F10** キーを押して変更内容を保存し、Setup を終了します。
 10. Exit プロンプトが表示されたら、もう一度 **Enter** を押します。
 11. 起動プロセスが続行します。起動が完了すると、OS のプロンプトが表示されます。
 12. 優先順位第 1 位の起動デバイス (およびリムーバブルメディア) が正しく取り付けられていることを確認し、サーバを起動します。

SGI Technical Publications Library からのマニュアルの入手

Silicon Graphics 社では SGI 1400 サーバのマニュアル (英語版のみ) を Web サイト上で公開しています。SGI 1400 サーバのマニュアルにアクセスするには、Web ブラウザに下記のアドレスを入力してください。

<http://techpubs.sgi.com/library>

キーワードまたはタイトルを入力して、必要な情報またはマニュアルを検索できます。

CD からのマニュアルの出力

同梱されている印刷版マニュアルのほか、CD 内のオンラインマニュアルも以下の形式で表示および印刷できます。

- PDF ファイル: Adobe Acrobat Reader で .PDF ファイルを表示および印刷できます。オペレーティングシステムによっては、Adobe Acrobat Reader がインストールされていません。
- PS (PostScript) ファイル: .PS ファイルを PostScript プリンタで直接印刷できます。

Acrobat からの印刷は時間がかかるので、当面必要なページだけを印刷することをお勧めします。CD 内のすべてのマニュアルの印刷が必要な場合は、.PS ファイルからの印刷をお勧めします。15 ページの「PostScript の .PS ファイルを使用する場合」を参照してください。

Acrobat の .PDF ファイルを使用する場合

Acrobat を使用してサーバからマニュアルを印刷する場合は、プリンタをパラレルポートに接続します。

1. CD-ROM のメニューバーから [Read/Print Manuals] を選択し、**Enter** を押します。Adobe Acrobat Reader が RAM ディスク d: (RAM メモリ内にシミュレートされたディスクドライブ) に自動的にインストールされ、起動します。Adobe Acrobat Reader でマニュアルの表示と印刷を行えます。
2. Adobe Acrobat Reader が起動すると、ポップアップメニューにマニュアル名の一覧が表示されます。このサーバのマニュアル名がわからない場合は、この『SGI 1400 Server Family クイックスタートガイド』のタイトルページで正しい製品名を確認してください。
3. このメニューには、サーバ内の SCSI デバイスのマニュアル名も表示されます。
4. マウスまたは ↑ キーと ↓ キーを使用してマニュアルを選択します。マウスの左ボタンをダブルクリックするか、または **Enter** を押すと、マニュアルの .PDF ファイルがロードされます。
5. マウスまたは **Tab** キーでマニュアルの .PDF ファイルを選択します。.PDF ファイルを表示するには、マウスの左ボタンをダブルクリックするか、または方向キーを押し、**Enter** を押します。
6. プログラムのオプションとプロンプトの指示に従って操作します。[Help] メニューを表示するには、[Help] をダブルクリックするか、または **Alt + H** を押します。

PostScript の .PS ファイルを使用する場合

サーバ内の CD からマニュアルを印刷するには、あらかじめプリンタをパラレルポートに接続する必要があります。その後、同梱されている PostScript ファイル (.PS) を使用して、必要なマニュアルまたは情報のハードコピーを印刷できます。

PostScript プリンタのインストール (NT の場合)

NT オペレーティングシステムの場合は、次の手順でプリンタをインストールします。

1. CD-ROM のメニューバーから [Quit to DOS] を選択し、**Enter** を押します。
2. ポップアップメニューから [Quit Now] を選択し、**Enter** を押します。
3. プロンプト C:\> に対して「dir c:\manuals」と入力し、**Enter** を押します。
4. プロンプト C:\> に対して「dir c:\(manual name)\pscript」と入力し、**Enter** を押します。.PS ファイルが一覧表示されます。
5. コピーコマンドまたはプリントコマンドで .PS ファイルをそのままドライバ経由で PostScript プリンタに送ります。
6. プロンプト C:\> に対して「menu」と入力し、**Enter** を押します。CD-ROM のメニューが表示されます。

PostScript プリンタのインストール (Linux の場合)

Linux オペレーティングシステムの場合は、次の手順でプリンタのインストールと構成を行います。

1. プリンタをパラレルポートに接続します。
2. ルートで `/usr/sbin/printtool` を実行します。

グラフィックユーザインタフェース (GUI) が起動します。この GUI でサーバの `/etc/printcap` ファイルを編集し、プリンタのスプールディレクトリを作成できます。

メモ： または、`/etc/printcap` ファイルをシステムで直接編集して、接続したプリンタを有効にします。`/etc/printcap` を使用してプリンタを構成する方法については、テキストファイル `/usr/doc/HOWTO/Printing-HOWTO` を参照してください。

3. [RHS Linux Print System Manager] の GUI で [Add] ボタンをクリックします。
4. ローカルプリンタを選択します。ここでリモートプリンタをセットアップすることもできます (UNIX 形式の lpd キューや、SMB を使用する lanmanager プリンタなど)。

5. Linux がプリンタのポートを検出したら、[OK] をクリックします。
6. プリンタのエントリ情報を編集するためのメニューが表示されます。プリンタ名、スプールディレクトリ、ファイルサイズの上限 (KB で指定、0 = 無制限)、プリンタデバイスなどを編集できます。
7. フィルタの [Select] ボタンをクリックします。プリンタ種別を選択できるようになります。ドライバの記述も表示されるはずですが、使用しているプリンタ名が表示されない場合は、互換性のあるドライバを検索できます。
8. 使用しているプリンタ名がリストに表示された場合は、選択し、[OK] をクリックします。
9. [edit local Printer Entry] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
10. [RHS Linux Print System Manager] で [lpd] → [restart lpd] をクリックします。
11. テストでは [print ascii test page] をクリックします。最後にテストページが出力されない場合は、プリンタ名を再度ハイライトし、[edit] を選択し、[input filter] フィールドの [select] をクリックして、[Send EOF after job] をオンにしページが排出されるようにします。[OK] をクリックして再実行します。
12. テスト用の PostScript ファイルを送信してプリンタの機能をテストします。

フロッピーディスクへの構成ソフトウェアのコピー

CD 内のソフトウェアをフロッピーディスクにコピーすると、各種 OS 用のデバイスドライバがフロッピーディスクにコピーされます。ただし、OS は認識可能なドライバだけを読み込むので、サーバの OS 用にフォーマットされていないフロッピーディスクのディレクトリは通常チェックできません。代わりにメッセージ `disk not formatted, do you want to format it now?` が表示されることがあります。ほとんどの場合は、使用している OS のドライバがフロッピーディスクにコピーされるので、ドライバをシステムにロードできます。

1. コピーを開始する前に、空の 2HD フロッピーディスクが数枚あることを確認します。
2. CD-ROM のメニューバーから [Create Diskettes] を選択し、**Enter** を押します。
3. 画面の指示に従って、ソフトウェアをフロッピーディスクにコピーします。
4. コピーが完了したら、CD-ROM のメニューバーから [Quit to DOS] を選択し、**Enter** を押します。
5. CD を CD-ROM ドライブから取り出します。

製品に関する警告

注意： この製品の電源には、ユーザがメンテナンスできる部品はありません。部品のメンテナンスは必ずシステム管理者に任せてください。同梱されている AC 電源コードが現地の条件に厳密に適合しない場合は、コードを改造または使用しないでください。このサーバには、電源ごとに AC 電源コードが用意されています。システムの AC 電源の切断は、システムの押しボタン式 DC 電源スイッチでは行えません。システムの AC 電源を切断するには、各 AC 電源コードのプラグをコンセントまたは電源から抜く必要があります。

本体カバーを外してシステム内部にアクセスする場合は、そのつど次の手順で準備作業を行ってください。

1. システムに接続されているすべての周辺デバイスの電源を切断します。
2. システムの押しボタン式電源スイッチでシステムの電源を切断します。
3. すべての AC 電源コードをシステムまたはコンセントから抜きます。
4. システム背面の I/O コネクタまたはポートに接続されているすべてのケーブルに識別ラベルを付けてから、ケーブルを取り外します。
5. コンポーネントを扱うときは導電リストストラップを着用して、静電気放電 (ESD) を防止します。ストラップの末端はシステムのフレームグラウンド、つまり塗装されていない金属面に接続します。
6. 本体カバーを外したままシステムを運転しないでください。

上記の 6 つの安全対策ステップをすべて完了した後に、次の手順でシステムのカバーを外します。

1. システム背面の南京錠を取り外します (南京錠を掛けてある場合)。
2. カバーからすべてのネジを取り外し、保管します。
3. カバーを外します。

冷却と換気が適切に行われるように、システムに電源を投入する前に、必ず本体カバーを取り付けてください。カバーをせずにシステムを運転すると、システムの部品が損傷することがあります。次の手順でカバーを取り付けます。

1. システム内部に工具や部品の置き忘れがないことを確認します。
2. ケーブル、アドインボードなどのコンポーネントが適切に取り付けられていることを確認します。
3. カバーを外すときに取り外したネジを使用して、カバーを本体に取り付けます。ネジは固く締めます。
4. システム内部への不正アクセスを防止するために、システムに南京錠を取り付け、施錠します。
5. すべての外部ケーブルと AC 電源コードをシステムに接続します。

注意： 運転停止直後のシステムは、マイクロプロセッサとヒートシンクが熱を持っていることがあります。また、ボードおよび本体の部品の縁およびピンが尖っていることもあります。触れるときは十分注意してください。必要であれば、保護手袋を着用してください。バッテリーを間違えて交換すると、爆発の危険があります。同型のバッテリーまたは装置メーカー推奨の相当品に交換してください。使用済みのバッテリーはバッテリーメーカーの指示に従って廃棄してください。

システムの運転場所として、一般的なオフィスまたは研究所の環境が想定されています。以下の条件を満たす場所を選んでください。

- 清潔で浮遊塵がない (室内の通常量の埃はかまいません)。
- 適切に換気され、熱源から離れている (直射日光が当たらないこと)。
- 振動源または衝撃源から離れている。
- 電気機器が発生する強い電磁場から遮断されている。
- 落雷が予想される地域では、システムをサージに接続し、落雷中はモデムから電話線を外すことをお勧めします。
- 適切に接地されたコンセントがある。
- 電源コードにアクセスするための十分な間隙がある (AC 電源を切断するには、電源コードを抜く必要があります)。